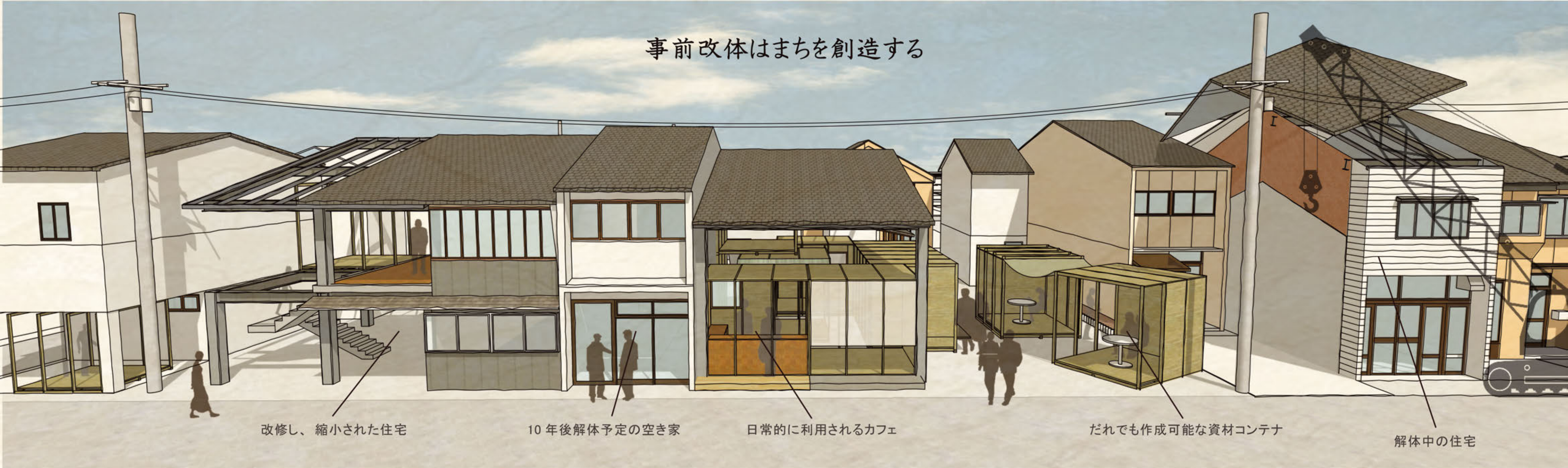


事前改体はまちを創造する



改修し、縮小された住宅

10年後解体予定の空き家

日常的に利用されるカフェ

だれでも作成可能な資材コンテナ

解体中の住宅

0. 災害後に起こりうる危険

0-1. まちを蝕む液状化

地震発災後、液状化が発生すると建物は傾き、日常生活が著しく困難になる危険性がある。しかし現在このような事態を防ぐための対策は、個々の判断に委ねられており、震災前の予防措置に対する金銭的支援も限られている。支援は主に震災後の復旧に向けられており、予防に関する対応が十分でないといえる。

0-2. 震災後進まない家屋解体

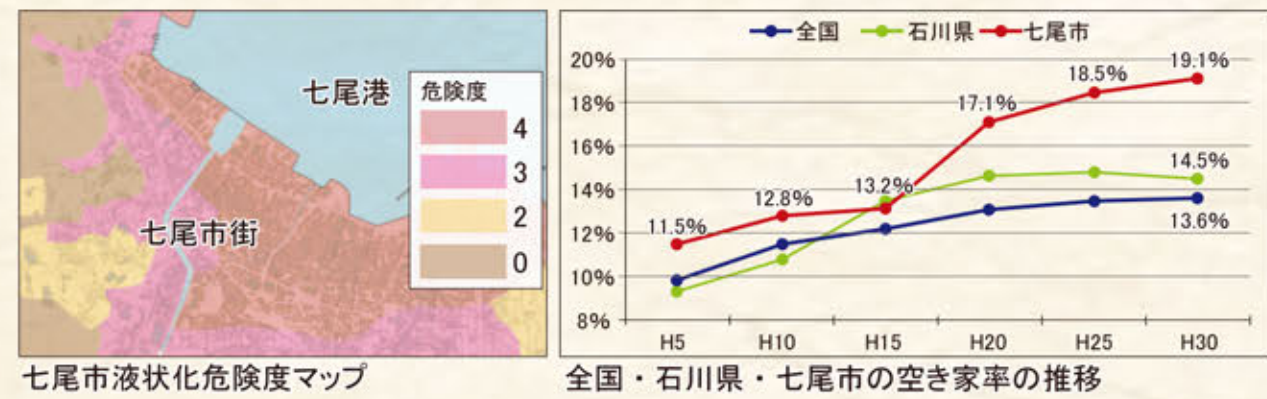
地震発生後、築年数の古い古民家が多い地方都市においては多くの民家に倒壊の危険性がある。また倒壊による周辺への被害も広がる。田舎では特に解体業者不足と空き家の相続関係などの問題から解体が進まない問題が生じている。



問い “このまま震災を待ち続けるだけなのか…?”

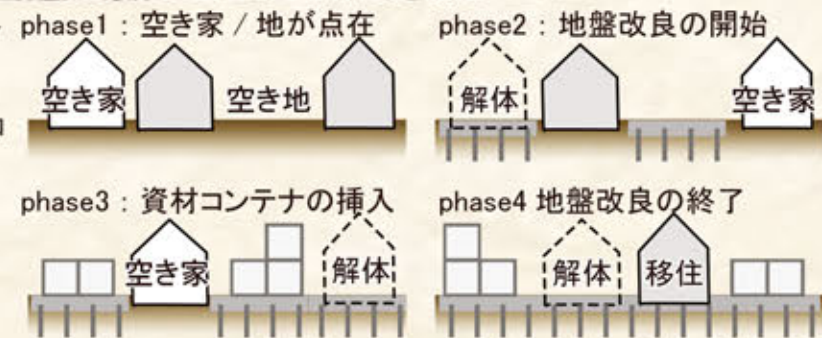
1. 七尾市の特徴

七尾市市街地は海沿いに立地し、地震時の液状化危険度が非常に高い。七尾市は空き家率が19.1%であり全国、石川県の他都市と比較すると高い水準となっている。空き家数は1690戸でそのうち危険な家屋は340戸ある。



2. 布石を打つ - 空き家活用による事前復興 -

まちなかに点在する空き家を事前に解体し、跡地を地盤改良する。その後解体資材を利用した資材コンテナ施設(広場)を挿入する。日常時は地域コミュニティを紡ぎ、非日常時は仮設住宅を備えた復興拠点として機能する。



3. 事前改体によるまちづくり

●事前復興プロセス

STEP01 空き家所有者の把握
事前に所有者と活用の意向を把握。

STEP02 解体業者の不足解消
倒壊の可能性が高い建物を少しずつ解体することで災害時の業者不足を防ぐ。

STEP03 解体資材の再利用
解体資材の加工を住民が日常的に行い交流を促進させる。



●金銭面

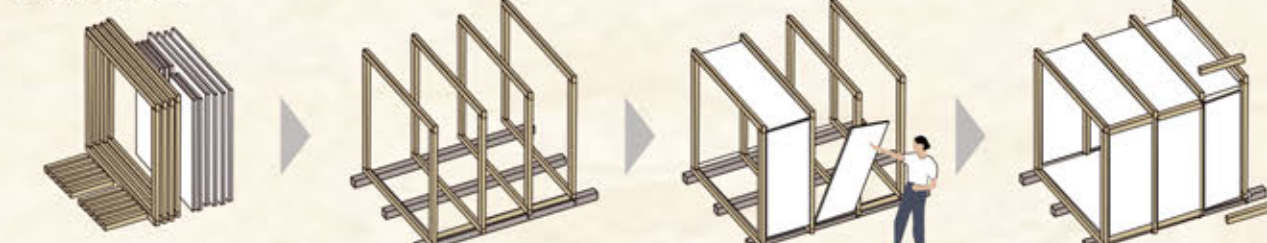


現在は、公園整備費や公共施設の整備費、空き家除却補助金、公費解体費等を同時に活用することができない。今後は補助金を一括にして、事前復興補助金として活用できるようにする。

4. 解体資材の転用

家屋の解体時に出る資材を転用し、住民が自ら作ることでできるコンテナを設計する。住民は日常からコンテナを利用することで非常時にも自らの力で居場所を創り上げることが可能になる。

●資材コンテナ

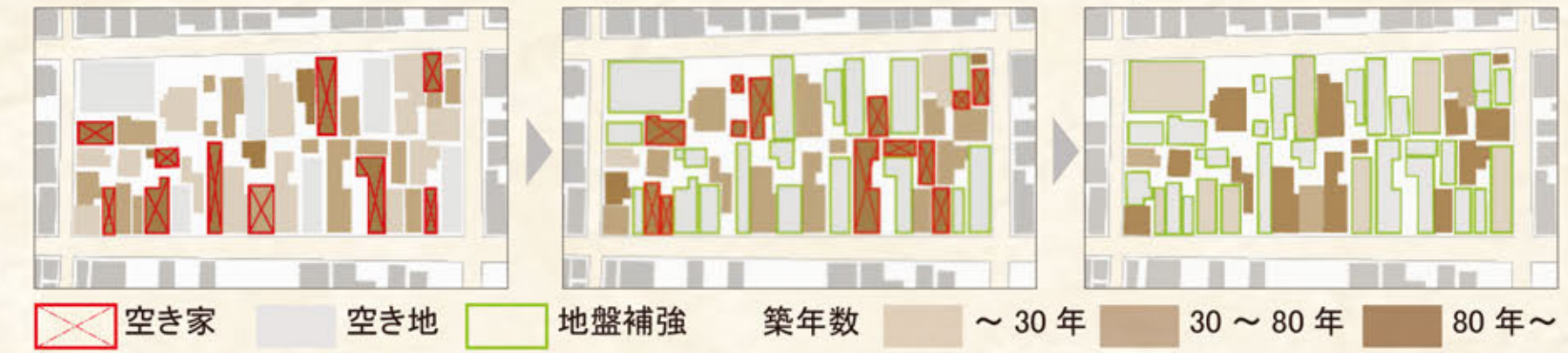


5. 更新・改良しながらたむ都市

step1: 空き地 / 空き家が点在

step2: 空き家の解体 / 空き地利用開始

step3: 地盤改良した土地に住み始める



6. ケーススタディ

	解体型	縮小(補強改修)型	空き地型
築年数	60年	40年	-
倒壊の危険	有り-解体	有り-構造補強、地盤改良	-
ストーリー	近所のTさん 家主さんは数年前に他界しちゃって... 息子夫婦は大阪にいらしいけど家の手入れがね...	家主Kさん 娘家族が家を出てこんなに広い家は必要なくなった! 倒壊の危険もあるし補強しないとな...	近所のGさん 昔から空き地でもったいない。誰の土地なんだろう。 災害時も普段も使える場所になればなあ...
アクセ	空き家	住居 3世帯6人家族	空き地
災害時用途	会議場 / 物資配給場所	住居 1世帯2人 + コミュニティスペース	防災公園 + 多用途施設
	コミュニティセンター	避難者宿泊場所	一時避難場所